



# 馬の学校通信

2013. 4 vol.49

発行 馬の学校

事務局 〒468-0007 愛知県名古屋市長区植田本町 3-1105-302 TEL/FAX:052-805-2920

E-mail : mine@horseschool.org ホームページ : http://www.horseschool.org



## 春のプログラムについて

諸事情により、春のプログラムは全てお休みさせていただきます。楽しみにお待ちいただいた皆様、大変申し訳ございません。

## 2013年度会費納入のお願い

2013年度会費につきましては、同封の郵便振替用紙にて、あるいは下記の口座番号までお願いいたします。

(いずれかをお選び下さい)

### <子ども会員・家族会員・大人会員>

プログラムに参加される方・通信の発送を希望される方

年会費 1,000円

### <賛助会員>

馬の学校を応援して下さる方(プログラム参加・通信の発送も含む)

賛助年会費 3,000円～

### <郵便振替 口座番号・加入者名>

0930-4-83224 馬の学校

\*会員特典：優先申し込み/年末にはカレンダーをプレゼント！

\*プログラム参加を検討されている方は、プログラム再開決定後の会費納入でも結構です。

## 馬が教えてくれること④

### ～子どもたちのチャレンジを支える～

ウマキャンプでは、乗馬レッスンで軽速歩まで習うと、その次は希望に応じて“フリー騎乗”に挑戦できます。小さな丸馬場から大きな角馬場へ、そして自分一人で馬と向き合うことになるため、子どもたちにとっては大きなチャレンジとなります。

この時、重要になるのは馬選び。子どもたちが乗りたいという馬を優先することもあります。子どもたちがフリー騎乗を通して何をやりたいと思っているのか、またスタッフ側として何を感ずて欲しいのかによって、選ぶ馬が違ってきます。例えば、悩みに悩んだ末にフリー騎乗を選んだけれど、またちょっと恐怖心が残っているような場合、フリーベテランの初心者向けの馬を選びます。そうすることによって、子どもたちは自分の選択に自信を持ち、次のステップに向かう力を身につけることができます。また、難しいことに直面しても乗り越える力を付けて欲しいと願い、そして乗り越えられると思われるときには、ちょっと気難しい馬を選んだりもします。うまくいかないときに、子どもたちは「この馬が悪い」と言う場合もあります。でも馬は決して非難することなく、他の人が乗ればきちんと動いている様子を見たりすることで、「これは自分の問題なのかもしれない」ということに子どもたち自身が気づいていきます。

馬に向き合うことが、自分に向き合うことにつながり、馬と共に難しいことを乗り越えていく力が身に付きます。馬が子どもたちのチャレンジを支えてくれるのです。



真剣な表情でチャレンジ中



「ありがとう！」

## 日本治療的乗馬協会からのお知らせ

JTRAでは、治療的乗馬の領域を知っていただくために、本会理事を中心とした講師により、どなたでも参加できる学習会を隔月に開催しています。お誘いあわせてご参加下さい。

テーマ：クライアントにあわせた乗馬時の配慮と工夫

日時：2013年5月13日(月) 18:30～20:30

場所：四谷地域センター1階「集会室4」

\*詳しくはHP (<http://jtranet.jp>) をご覧ください





## 馬のおもちゃ① 手押しギャロップ

友人に出産祝いで頂いた、木の手押しおもちゃです。木の棒を押して歩くと、人形が上下して進んでいきます。カタコトと音も鳴って、木製ならではの優しいおもちゃです。馬バージョンがあるところは、さすがドイツ製ですね。鮮やかな色合いなので、飾っているだけでも素敵ですし、娘がこれを押して歩けるようになるのがとても楽しみです。

なお、この手押しギャロップは「ゆったりの木」で購入可能です。



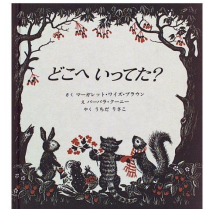
## 馬 おすすめの本

『どこへいった？』 マーガレット・ワイスブラウツ著  
バ・バラニ-絵 童話館出版

いろいろな動物たちが登場し、どこに行っていたのか、動物たちの生活感あふれる行き先が紹介されています。馬も登場します。

「うま うま どこへ いった？ クローバーのはらっぱ うっとりしてた」

リズム感のある言葉が読む楽しさ引き出し、黒と赤だけのシンプル絵も素敵です。

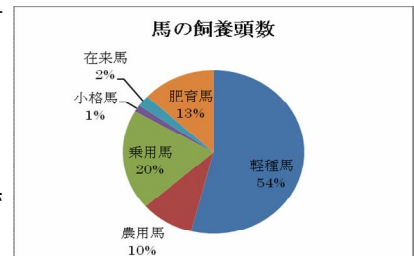


# 馬のデータ (1)

日本にはいったい何頭の馬がいますか？ 正解は・・・81,376頭（平成22年度）。想像したよりもたくさんいると感じる方が多いのではないのでしょうか？ これには、乗用馬だけでなく、軽種馬（競馬で走っている馬）、農用馬、小格馬（ポニー）、在来馬（昔から日本にいる馬・道産子や木曾馬など）、肥育馬（食用になる馬）が含まれています。このうち、一番多いのは軽種馬で43,943頭、全体の半分以上を占めます。次いで乗用馬が16,147頭、全体の20%ほどです。

また、この20年間をみると、馬の頭数は減る傾向にあるのが（平成3年は115,779頭でした）、その中でも乗用馬の頭数は約2倍（8,981頭→16,147頭）になっています。

ではこれらの乗用馬が一番多い都道府県はどこだと思いますか？ 正解は・・・北海道と思うかもしれませんが、何と千葉県で1,365頭です。ちなみに北海道は1,339頭で第2位でした。



参考文献：「馬関係資料」平成24年3月 農林水産省生産局畜産部畜産振興課

## 編集後記 この冬はとても寒かったため、春の訪れいつもよりも嬉しく感じます。

私事で恐縮ですが、1月10日に無事に女の子を出産しました。予定日より3週間近く早く生まれ、2,376gと小さめでしたが、その後はマイペースながらも元気に成長しています。はじめの1ヶ月は慣れないことばかりで、さらに寝不足も加わり余裕のない日々でしたが、ようやく生活リズムも整ってきました。もうすぐ3ヶ月、目を追うことが上手になり、首もしっかりしてきたり、働きかけに対して笑顔が見られるようになったりと、日々成長していく姿に、たくさんの喜びを与えてもらっています。

プログラムの再開はまだ未定ですが、ふれあいプログラムをこの秋、あるいは来年の春からできればと考えています。しばらくご迷惑をおかけいたしますが、どうかご了承くださいませようお願いいたします。（峯崎 友香理）

